

## ◆ 今週のコメント (感染地域、感染経路については推定を含みます。)

- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が2例(40歳代及び50歳代男性)ありました。本年の累積報告数は29例となりました。発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。  
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)  
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
- デング熱の報告が1例(20歳代女性)ありました。症状は発熱、2日以上続く発熱、頭痛、血小板減少、白血球減少です。感染地域は国外(マレーシア)で、感染経路は蚊媒介です。本年の累積報告数は2例となりました。
- カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が1例(80歳代男性)ありました。症状は菌血症、感染地域は国内で、感染経路は医療器具(人工呼吸器)です。本年の累積報告数は30例となりました。
- 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)の報告が1例(10歳未満女性)ありました。症状は両下肢の弛緩性麻痺、深部腱反射低下、髄液細胞数増加、発熱です。本年の5月1日に5類感染症の全数把握感染症に指定されてから累積報告数は2例となりました。
- 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(50歳代男性)あり、症状は発熱、菌血症、右股関節痛です。感染地域、感染経路は不明です。本年の累積報告数は55例となりました。
- 梅毒の報告が4例(20歳代女性2例、30歳代男性及び50歳代男性各1例)ありました。本年の累積報告数は55例となりました。
- 百日咳の報告が2例(10歳代男性及び40歳代男性)ありました。いずれも症状は持続する咳、夜間の咳き込み、感染地域は国内で、家族内感染です。本年の累積報告数は53例となりました。
- 伝染性紅斑の定点当たり報告数が、京都市、全国共に、前週と比べて増加(京都市は0.05から0.21、全国は0.28から0.45)しました。いずれも本年で最も高い値となっています。

## ◆ 今週のトピックス:<インフルエンザ>

今週の京都市のインフルエンザ定点当たり報告数は0.04(3例)でした。前週は0.06(4例)であり、現状では流行の兆しは見られません。詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数把握の感染症

- 二類:結核 6例(肺結核 5例, 肺外結核 なし, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 4例  
【1月以降の累積報告数 252例(肺結核 115例, その他結核 63例, 潜在性結核感染者 74例)うち喀痰塗抹陽性 63例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 2例【1月以降の累積報告数29例】
- 四類:デング熱 1例【1月以降の累積報告数 2例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 30例】
- 五類:急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。) 1例【5月以降の累積報告数 2例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 55例】
- 五類:梅毒 4例【1月以降の累積報告数 55例】
- 五類:百日咳 2例【1月以降の累積報告数 53例】

### 定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.04	3
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.79	163
	② RSウイルス感染症	0.93	40
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.84	36
	④ 手足口病	0.72	31
	⑤ ヘルパンギーナ	0.67	29
眼科	流行性角結膜炎	1.30	13

## 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:<インフルエンザ>

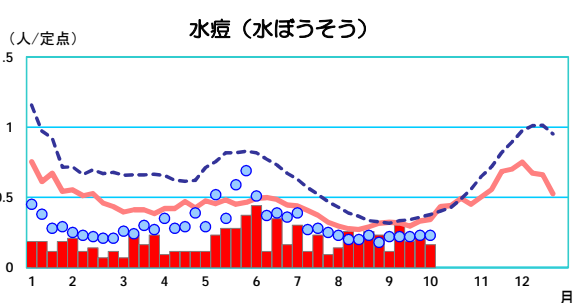
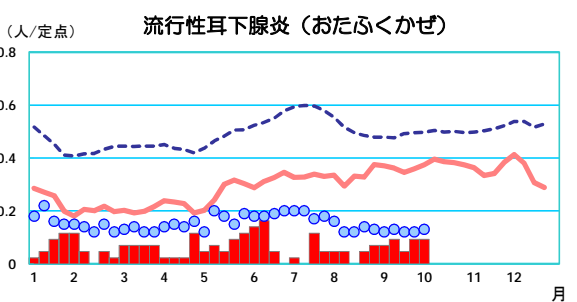
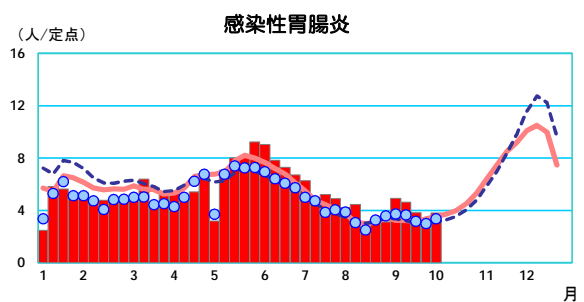
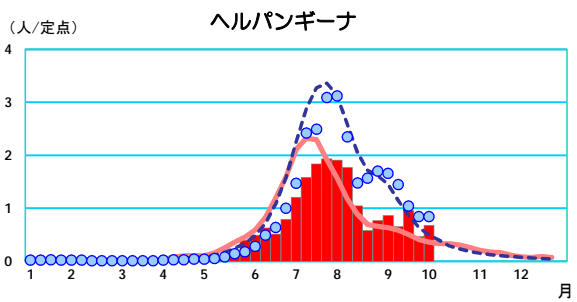
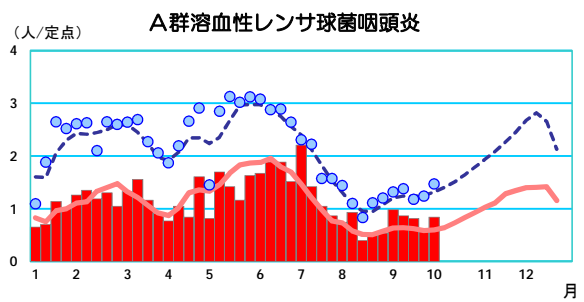
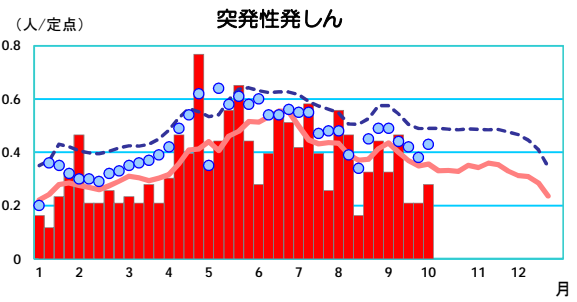
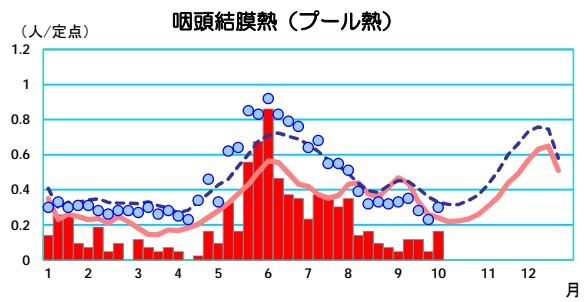
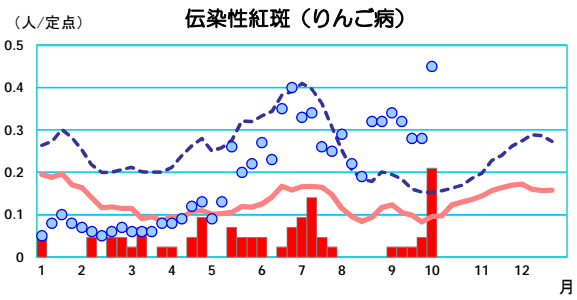
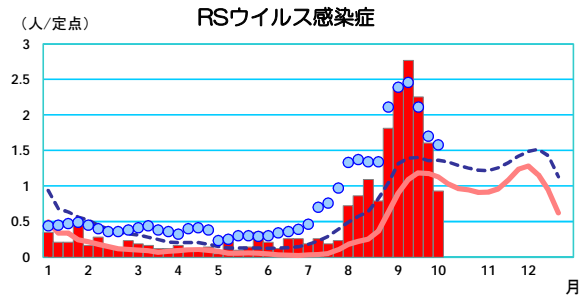
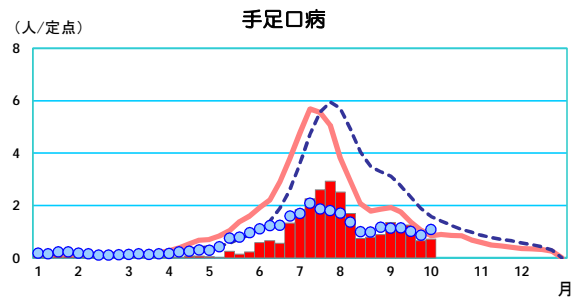
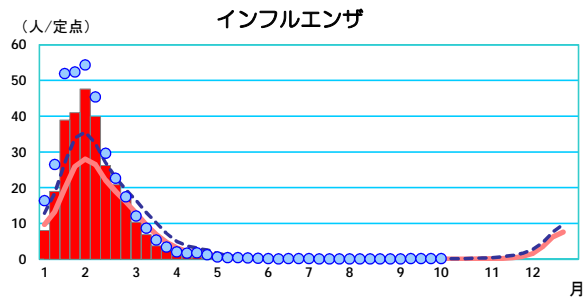
付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注)京都市のデータは、平成30年10月10日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

\* 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

# インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



# 第40週(10月1日～10月7日)トピックス: <インフルエンザ>

今週の京都市のインフルエンザ定点当たり報告数は0.04(3例)でした。前週は0.06(4例)であり、現状では流行の兆しは見られません。

今週の全国の定点当たり報告数は、0.17(848例)と先週の報告数0.16(795例)よりわずかに増えました。過去5年の全国平均をみると、定点当たり報告数が流行開始の目安となる1.0を超えるのはおおむね12月(図1)で、まもなく流行期を迎えることになります。

2017/2018シーズンの流行の推移を国立感染症研究所のレポートを基に振り返ると、流行の開始は11月下旬と早く、2010/2011シーズン以降初めて累積推計受診者数が2000万人を超え、大変大きな流行でした。病原体は第45週からA(H1)pdm09亜型が増加、48週以降B型が増加し、さらに年明けにはA(H3)型が増加するなど混合流行となりました。

さて、今シーズンですが、36週～40週の全国のインフルエンザウイルス分離状況は、A(H1)pdm09が8割近く、A(H3)型が残り2割という比率になっています。そこで、流行期を迎える前の36週～40週(プレシーズン)の検出状況の比率が、そのシーズンの最終的な検出比率をどの程度反映しているかを図式化しました(図2)。プレシーズンに比率の高かった病原体が、そのまま高率を維持するシーズンが多いことから、2018/2019シーズンはA(H1)pdm09亜型が主流になるものと推定されます。

インフルエンザの予防策としては手洗い、うがいなどの一般的な衛生行動が重要です。予防接種は10月中旬以降から始まります。

なお、インフルエンザワクチンは、そのシーズンに流行するインフルエンザウイルスの「型」を予測して作られています(表1)、約5箇月しか効果が持続しないため、毎年接種する必要があります。13歳以上の接種は1回または2回とされていますが、医師が特に必要とする場合を除いては1回でよいとされています。任意接種のため、費用は自己負担となります。接種の詳細はかかりつけの医療機関でご相談ください。

図1 京都市及び全国の定点当たり報告数の推移

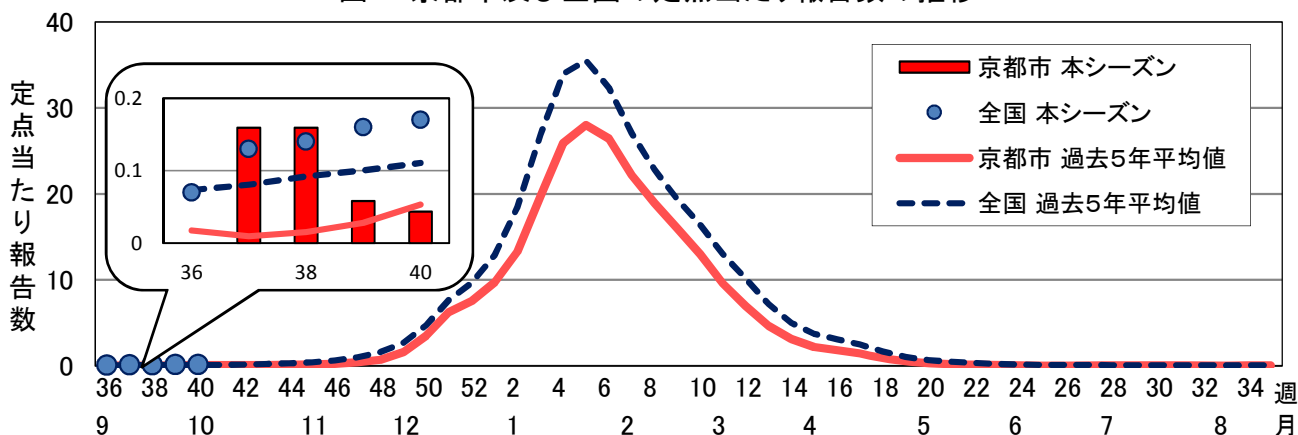


図2 インフルエンザウイルス検出状況の推移(内円:36~40週, 外円:シーズントータル)

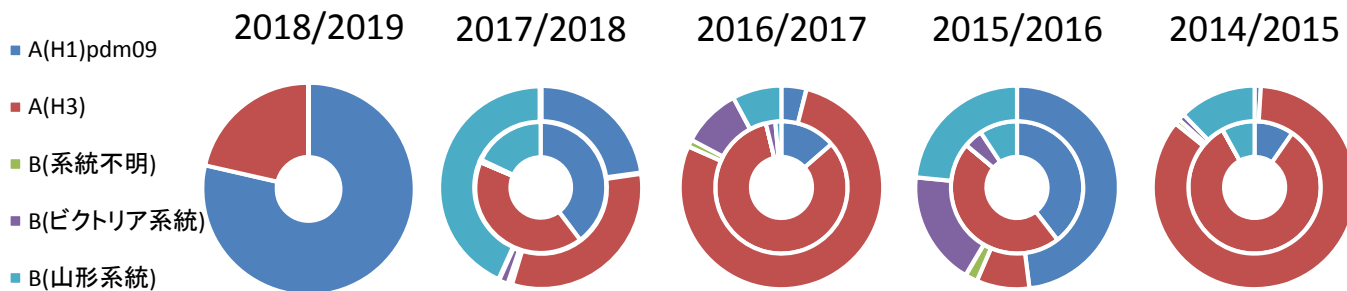


表1 2018/2019シーズン インフルエンザワクチン株

・ A/Singapore (シンガポール) /GP1908/2015 (IVR-180) (H1N1)pdm09
・ A/Singapore (シンガポール) /INFIMH-16-0019/2016 (IVR-186) (H3N2)
・ B/Phuket (プーケット) /3073/2013 (山形系統)
・ B/Maryland (メリーランド) /15/2016 (NYMC BX-69A) (ビクトリア系統)

T3201

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第40週

疾病,行政区別報告数

平成30年10月1日～平成30年10月7日

データ入手日:平成30年10月10日

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜 炎	流 行性角結膜 炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺 炎	ク ラミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	-	2	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	6						
上京	3	1	1	-	3	-	3	1	-	4	-	-	-						
左京	-	9	2	6	63	-	1	-	1	5	-	-	-						
中京	-	4	-	2	4	-	5	-	1	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-
東山	-	2	-	1	8	-	1	-	1	1	-	-							
山科	-	2	-	3	3	-	5	-	3	1	2	-	4						
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	1	-	2	2	-	2	4	-	7	-	-							
右京	-	11	1	12	12	3	4	-	1	2	2	-	2						
伏見	-	6	1	8	50	3	6	3	4	4	-	-	-						
西京	-	2	2	2	15	1	4	1	1	2	-	-	-						
京都市計	3	40	7	36	163	7	31	9	12	29	4	-	13	-	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ (※1)	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	頭A群 溶血性レンサ球菌咽 頭炎	感染性胃腸炎	水 痘	手足口病	伝 染性紅斑	突 発性発しん	ヘル パンギーナ	流 行性耳下腺炎	急 性出血性結膜 炎	流 行性角結膜 炎	細菌性髄膜炎 (※2)	無 菌性髄膜炎	マイ コプラズマ肺 炎	ク ラミジア肺炎 (※3)	感 染性胃腸炎 (※4)	
男女合計																			
北	-	0.50	-	-	0.75	-	-	-	-	-	-	-	6.00						
上京	0.60	0.33	0.33	-	1.00	-	1.00	0.33	-	1.33	-	-	-						
左京	-	2.25	0.50	1.50	15.75	-	0.25	-	0.25	1.25	-	-	-						
中京	-	1.33	-	0.67	1.33	-	1.67	-	0.33	1.00	-	-	0.50	-	-	-	-	-	-
東山	-	1.00	-	0.50	4.00	-	0.50	-	0.50	0.50	-	-							
山科	-	0.40	-	0.60	0.60	-	1.00	-	0.60	0.20	0.40	-	4.00						
下京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-							
南	-	0.33	-	0.67	0.67	-	0.67	1.33	-	2.33	-	-							
右京	-	2.20	0.20	2.40	2.40	0.60	0.80	-	0.20	0.40	0.40	-	2.00						
伏見	-	0.86	0.14	1.14	7.14	0.43	0.86	0.43	0.57	0.57	-	-	-						
西京	-	0.40	0.40	0.40	3.00	0.20	0.80	0.20	0.20	0.40	-	-	-						
京都市計	0.04	0.93	0.16	0.84	3.79	0.16	0.72	0.21	0.28	0.67	0.09	-	1.30	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

### 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第40週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年10月1日～平成30年10月7日

データ入手日:平成30年10月10日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	40	7	11	19	1	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		7	-	1	-	2	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		36	-	-	-	3	4	5	4	6	4	6	-	3	1	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎		163	2	12	24	19	12	14	14	8	7	7	7	12	6	19	-	-	-	-	-	-
水痘		7	1	-	-	-	-	-	-	2	-	1	1	-	2	-	-	-	-	-	-	-
手足口病		31	-	4	12	4	3	1	1	2	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑		9	-	-	-	2	-	3	3	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発しん		12	1	2	8	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ		29	1	5	5	14	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎		4	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		年齢2	13	1	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	1	3	2	2
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳-	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳-	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳-	15歳-	20歳以上	30歳-	40歳-	50歳-	60歳-	70歳以上	
	年齢4	総数	0歳	1歳-	5歳-	10歳-	15歳-	20歳-	25歳-	30歳-	35歳-	40歳-	45歳-	50歳-	55歳-	60歳-	65歳-	70歳以上				
インフルエンザ(※1)	年齢1	0.04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.01	-	0.01	0.01	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.93	0.16	0.26	0.44	0.02	0.05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱		0.16	-	0.02	-	0.05	-	0.02	0.02	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.84	-	-	-	0.07	0.09	0.12	0.09	0.14	0.09	0.14	-	0.07	0.02	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎		3.79	0.05	0.28	0.56	0.44	0.28	0.33	0.33	0.19	0.16	0.16	0.16	0.28	0.14	0.44	-	-	-	-	-	
水痘		0.16	0.02	-	-	-	-	-	-	0.05	-	0.02	0.02	-	0.05	-	-	-	-	-	-	
手足口病		0.72	-	0.09	0.28	0.09	0.07	0.02	0.02	0.05	0.07	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	
伝染性紅斑		0.21	-	-	-	0.05	-	0.07	0.07	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
突発性発しん		0.28	0.02	0.05	0.19	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ		0.67	0.02	0.12	0.12	0.33	0.02	0.07	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性耳下腺炎		0.09	-	-	-	-	-	0.05	0.02	-	-	-	-	0.02	-	-	-	-	-	-	-	
急性出血性結膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
流行性角結膜炎		年齢2	1.30	0.10	-	0.10	-	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	0.10	0.10	0.10	0.30	0.20	0.20
細菌性髄膜炎(※2)		年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
マイコプラズマ肺炎	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
クラミジア肺炎(※3)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
感染性胃腸炎(※4)	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

## 京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第40週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年10月10日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	11	11	4	3
RSウイルス感染症	78	103	119	97	69	40
咽頭結膜熱	3	2	5	5	2	7
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	42	37	35	24	36
感染性胃腸炎	134	212	199	164	143	163
水痘	10	5	13	8	10	7
手足口病	38	58	47	54	28	31
伝染性紅斑	-	1	1	1	2	9
突発性発しん	19	14	20	9	9	12
ヘルパンギーナ	33	37	28	41	20	29
流行性耳下腺炎	3	3	4	2	4	4
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	5	12	11	12	13
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	345	482	496	438	327	354

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ ※1)	-	-	0.16	0.16	0.06	0.04
RSウイルス感染症	1.81	2.40	2.77	2.26	1.60	0.93
咽頭結膜熱	0.07	0.05	0.12	0.12	0.05	0.16
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.53	0.98	0.86	0.81	0.56	0.84
感染性胃腸炎	3.12	4.93	4.63	3.81	3.33	3.79
水痘	0.23	0.12	0.30	0.19	0.23	0.16
手足口病	0.88	1.35	1.09	1.26	0.65	0.72
伝染性紅斑	-	0.02	0.02	0.02	0.05	0.21
突発性発しん	0.44	0.33	0.47	0.21	0.21	0.28
ヘルパンギーナ	0.77	0.86	0.65	0.95	0.47	0.67
流行性耳下腺炎	0.07	0.07	0.09	0.05	0.09	0.09
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	0.40	0.50	1.20	1.10	1.20	1.30
細菌性髄膜炎 ※2)	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 ※3)	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 ※4)	-	-	-	-	-	-
合計	8.33	11.59	12.36	10.93	8.49	9.20

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。